

# 第3回 講演会報告

安全・安心な子育ての環境づくりを支援する

障がい福祉・医療・教育・地域住民の連携事業



日時 11月18日(日) 10:00~12:00  
会場 ホテル黒部  
講演者 市立旭川病院 精神科 診療部長  
武井 明 先生  
テーマ 思春期外来からみた最近に子どもたち

第3回目の講演会は、教育関係者を中心に（近隣市町村の小・中・高等学校の先生）保護者、福祉関係者、役所関係、医療機関、地域住民の方々が100人を超えて集まりました。

だれもが通る「思春期」について関心の深さを感じました。具的な事例を示してのお話はわかりやすく、豊富な経験とデータ（統計）に裏付けされた分析はたいへん参考になりました。質疑応答では、教育現場からの切実な質問がされました。とても2時間では足りない内容の詰まった講演会となりました。

## ○思春期外来を訪れる最近の子どもたち

- ・二次障がいを持った広汎性発達障がいが増。
- ・主症状としては依然として不登校が圧倒的に多い。
- ・子供に対する対応だけでは不十分で、親自身に対する援助が必要なケースが多い。

## ○思春期の特徴

- ・急激な身体的成長と第2次性徴
- ・親からの心理的自立
- ・同年輩の友達との親密な関係
- ・他人からどう思われているかを過剰に意識する。
- ・自分に対する劣等感を抱きやすく、気持ちが極端に揺れ動きやすい。

## ○思春期を再度考える

- ・「人は15歳で人生を一度終える」
- ・思春期は過渡期ではない
- ・思春期から大人への不連続で飛躍がある。
- ・大人は利害や損得で物事を判断
- ・思春期の子は、規制の概念、社会規範、常識にとらわれない自由な視点で物事をとらえる。
- ・本人社会の価値観を一方的に押し付けるのではなく、本来の思春期にふさわしい生き方（上手に悩むことも含めて）ができるような環境を作ってあげることが大人の役割（一部抜粋）

